

中学生描画の物語性

— HTPアイテム選択法を実施してみた —

小山内 實*・玉田 尚子**・河口 恭子***

昨年の論文（三重大学教育実践センター紀要第26号、2006）で我々は、「課題画の含む自由度の問題」とそれと密接に関連してくる「描画の物語の可能性」、の二つの問題を残された課題としておいた。まず初めに、描画のアセスメント機能に拮抗する働きを、ファーム firm という耳新しい言葉で押えた。だから、ファームの機能は、心を安定させ、落ち着かせ、元気づける、堅固にする、といったほどの働きを指すことになる。

次に我々は、このファーム機能をもたせるために従来の家・木・人のアイテムをいわばバラバラにし、「使用アイテムは一つで良い」とする教示手法に変え、その条件下での HTP 法を HTP アイテム選択法と名づけた。

我々の方法が最もその効果を発揮する描画対象者として絞ったのは、中学生しかも2年の子どもたちである。試行の結果、子どもたちの描画の自由度が増し、現在も含め、自分の過去と将来の物語性が確認できた。

キーワード：HTP法、HTPアイテム選択法、ファーム（機能）、中学生、物語性

1. はじめに：ファームとアセスメント

前回の論文（センター紀要第26号、2006）で我々は、残された課題として、「課題画の含む自由度の問題」とそれに関連してくる「描画の物語性」の可能性、この二つをあげておいた。

この二つが取り組むべき課題として浮かび上がってきたのは、前回論文の「考察と結論」のところで触れておいたように、我々の方法による、S-HTP 描画法の教示時、子どもたちのほうからの「他に何を書いてもいいんですか、文字も一緒に入れていいんですか」の質問に対して、教師が「それはあなたの自由です」と答えてあげると、質問した子どもだけでなく他に何人かの子どもたちも一緒に笑顔になって描画にとりかかることを何度も確認しているからである。この「自由度の拡大の保障」に励まされて、子どもたちは、イメージとファンタジーを膨らませ、いろいろな場面を想定したり、いわば物語の筋（プロット）らしきものを作りあげて、それから、描画に取り掛かるのであった。

だから、我々がこれまで S-HTP 法施行に際して心掛けてきたことは、子どもたちが製作した描画がどんな内容を表現しているのか、そしてその作品がどんな意味を持っているのかの理解に務めることと同時に、描画中のその子どもの心に、どんなイメージやファンタジーがさらにどんなプロットやストーリーが展開され、更にはそれらがどんな変化（消滅と新生も含めて）をたどって一枚の作品に結実したのか、そして描画中の子どもが、

どのような情動体験をしていたのかという、原理上、不可能としか思われぬ、描画中の子供の心的現象への接近である。

しかし描画中の子どもの眼差し・表情・ささやかな身振り・一瞬のつぶやきなどの観察で得られた内容と、描画後の「描画しているときの気持ちを書いてください」という教示に対する回答とを合せて吟味すると、もちろん限界はあるものの、描画中の子どもの心的現象にかなりの程度接近し得る、と考えて良い。例えば、今回我々が実施した「HTP アイテム選択法」の描画後の「絵の説明や、描いているときの気持ちなどを書いてください」に対して、絵の説明は全く触れることなしに、『絵は苦手だけど小さい頃に戻ったみたい楽しく遊び心で絵を描いていた。楽しくできてよかった』と答えた子どもがいた。この子どもの回答は、絵画法の本質一遊び心で楽しく描くこと一を余すところなく示している。

つまり、本稿で我々が主張したいのは、HTP 法は、実施方法を少し変えるだけで、アセスメント機能だけでなく、以下に示すように十全なファーム機能を持たせることができる、ということである。我々の造語である、このファームという言葉は、説明が必要であろう。このファームという言葉は、英語の、安定させる・堅くする・<樹木を>しっかり植え付けることを意味する、さまざまな描画法に共通して見られる効果面を的確に言い表していて、形容詞や副詞としても使われる動詞 firm のことである。因みに、意味上類似している、肯定する・認める affirm、確認する confirm の二つの動詞が語源 firm を共にしていることは説明を要しないだろう。だから我々はファームの言葉を単独で用いたりセルフという述語とファームという言葉を合成して、セルフファームを「自己安定化」の意味で造語し、本稿で用い

* 附属教育実践総合センター

** 伊勢市立北浜中学校

*** 伊勢市立北浜小学校

ているのである。これに近い言葉にセルフケアという述語があるが、このセルフケアは、狭義の治療・看護・介護から広義の保育・世話までの内包と外延を持ち、どちらかといえば、ケアする側からの述語であってケアされる側の描画効果面をほとんど言い表してはいない。だから、いわゆる絵画法全般に見られる、場合によってはアセスメントと相反するもうひとつの側面を峻別するために、アセスメントに対して我々は敢えて、(セルフ)ファームという耳慣れない言葉を用いるのである。つまり我々は、描画法の持つ二側面、いわゆる評価・テストの意味でのアセスメントに対して、描画活動が、描画者自身に与える効果面を、セルフファームと呼ぶことにしたのである。ファーム効果を産み出すために、今回我々が工夫したHTP法の変法と考えてよい、「HTPアイテム選択法」について、最初に説明しなくてはなるまい。

2. HTP アイテム選択法について

統合型 HTP 法と HTP アイテム選択法はどこが、どう違うのか、まずその点について触れる。

統合型 HTP 法の教示は、『家と木と人（という三つのアイテム）を入れて何でも好きな絵を描いて下さい』であった。これに対して、今回我々が試みた、HTP アイテム選択法の教示は、『家、木、人のうち、どれかひとつは必ず入れて、もちろん、二つ入れても、三つ入れてもかまいません。あとは自由に描いてください』である。つまり、統合型 HTP 法を、いわばバラバラにして、HTP 法のアイテムの課題設定を子どもたち自身に任せるのである。ということは、HTP アイテム選択法には、アイテム三つの HTP 法（＝統合型法）、アイテム二つの HT 法、HP 法、TP 法、アイテムが一つだけの H 法、T 法、P 法、の全部で七法が含まれるということになる。だから、HTP アイテム選択法は、統合型 HTP 法が一方に限定されるのに対して、七つの選択肢が与えられるために、描画実施者である子どもたちに、格段の「自由度の拡大」をもたらすことになる。換言すれば、描画作業のもたらすはずの課題性が極端に少なくなる、あるいは、むしろ課題性というよりも、描画の手掛かりだけが与えられるという利点が得られるということもできる。

ここで、絵画療法の指導の経験者であれば誰でも知っている事実、つまり、課題を一切与えないで、『自由に絵を描いてください』とだけ教示された場合、むしろ子どもたちは、手掛かりがないため、何を描いていいやら当惑してしばらくは描画に取りかかれなことを指摘しておくべきだろう。この「自由度の増大がもたらす効果」は、あとで検討する、表の内容、とりわけ子どもたちが感じた「描画中の気持ち」を参照してもらえば、直ちに理解できる筈である。

3. 実施方法と手順

対象者：三重県某公立中学 2 年生 28 名（男子 15 名、女子 13 名）。集団実施。全員、これまで統合型 HTP 法およびその他のアセスメント的描画の経験なし

実施時期：2006 年 7 月某日

実施した授業枠：国語の時間（美術の時間ではないから、評価を伴わない）。50 分間

使用した画用紙：191mm × 271mm 大、画用紙の縦、横の使い方は自由

使用画具：12 色クレヨン

教示：『家、木、人、のうち、どれかひとつを必ず入れて、もちろん、二つ入れても、三つ入れてもかまいません。あとは好きなものを何でも入れて自由に描いて下さい』

描画後質問内容：『絵の内容説明と描画中の自分の気持ちを書いてください』

4. 結果

表（38～39 頁）には、HTP 選択法を実施した対象者 28 名全員のアイテム数、描画内容、描画中の気持ち、感想などを載せてある。

- ・アイテムについて：三つのアイテム全部用いたのが 3 名。二つのアイテムを用いたのが 9 名。その内訳は、木と人、家と人、家と木、のアイテムを用いたのが、それぞれ 2 名、2 名、5 名である。アイテム一つしか用いなかったのは、最多で 16 名に上る。
- ・描画中の気持ちについて：一番多かったのは、「幼い頃に戻ったようで楽しかった」、「懐かしく、楽しかった」といった感想に代表される“ノスタルジア組”が 20 名に上った。次いで、「無我夢中で描いていた」、「（描画行為が）止まらなくなった」とした“熱中没頭型”が 3 名、「現在や将来への希望、あるいは将来の自分の人物像が描けた」と述べた“未来志向タイプ”が 3 名。残りの 2 名は、描画中の気持ちとは無関係の、画具に関するものだった。

5. 考察

考察にあたって、本稿の狙いを再確認しておこう。

「はじめに」で触れておいたように、我々が HTP アイテム選択法を試みたのは、元来の S-HTP の有するファーム機能を最大限引き出そうとする意図からだった。

だから、そもそも S-HTP 法とは何だったのか、そして今度はその HTP 法をいわばバラバラにして、「HTP 七法」と呼んでもかまわない、HTP アイテム選択法に工夫した理由は一体、何だったのか、まず最初に吟味し、

次に描画対象者を何故に中学生に、しかも二年時に絞ったのかについて説明し、最後に、全描画の内容と描後質問に対する回答内容の概観と吟味に移ることにしよう。

1. S - HTP 法とは何だったのか

この問題は、描画者にとって、課題アイテムの、家、木、人、はどんな意味があるのかの吟味から始めるのが必要不可欠であろう。この事に関して三上直子（1995）は、先行研究者の解釈仮説も踏まえ、「家は家庭との関係を、木はより無意識的な自己像を、人はより意識的な自己像を表している」という、常識的的基本の見解に立ちながらも、場合によっては、「家でも自己像の投影として見れる」ような柔軟な姿勢の重要性を指摘している。とりわけ本稿にとって重要なのは、「S - HTP においては、中学生頃からは、自己または他者の、過去か現在か未来における、現実像あるいは理想像とそのバリエーションが見られるようになるので、描画後の質問に対する回答内容による確認が不可欠である」との三上の指摘である。

問題は、この「自己または他者」という表現である。この他者とは、例えば憧憬する他者だったとしたら、その他者とは、実は他ならぬ理想的自己自身の投影の表出ではないのか。我々は、こうした考えを捨て去る訳にはいかない。こうした我々の考えに立つならば、HTP の 3 アイテムは、どのアイテムを使用したとしても結局は、人というアイテムに収斂することになる。我々が、今回、HTP アイテム法を考案し試してみたのは、こうした考えが基礎にあったからである。

2. 中学 2 年生を対象に選んだ理由

人によって多少の時期的ずれがあったとしても、中学 2 年の時期というものは、人生のライフサイクル上、現在当面している問題はもちろん、今後の自分にどんな課題が待ち構えており、その都度、どんな希望や夢やそれに必然的に伴う漠たる不安や怖気、場合によっては自分ひとりでは抱えきれない絶望を経験せざるをえない季節にあたると考えてよい。我々が今回、中学 2 年生を対象にし、しかも描画の時期を 7 月に設定したのも、こうした理由が背景にあるからである。

3. 描画および描画後質問内容への回答の検討

絵に説明の無かった者が 7 名で全体の四分の一で比較的多い。これは、「絵を見て貰えば分かるはず」、「絵画は本来説明するものではない」という考えからだろう。描画中の気持ちを書かなかった 2 名の理由は「別に・・」であった。

ところで、全描画からアイテムを一つずつ拾い出してみると、家が 16 作品に、木が 19 作品に、人が 8 作品に登場している。もちろん各アイテムの多寡が問題では

ない。

この結果は、やはり先程我々が主張したように、全てのアイテムは結局は、生きていく上で最も難しい相手である、人に収斂することの証左ではないのか。因みに、小学 2 年生に、絵画制作「夏休みの思い出」の課題が出され、「人を描かなくても良い」と教示された、ある子どもは「みんな、人は描かなくてもいんだって」と、級友たちに吹聴していた。

これまでの我々の主張を、紙幅の都合で 5 作品に限った実物の描画を見ていこう。

図 1：3A 男。画面一杯にたくましい木を描いている。アセスメント上気になるのは、心の傷を連想させる回虫様の付加物とスティックフィガーを思わせる異常に小さい黒色の人物とこれまた小さすぎる家である。しかし、本作品を全体と見るならば、「楽しく描けた」の感想が示している様に、ファーム機能が働いており、心に傷を負いながら、未来に立ち向かおうとする物語は連想可能である。

図 2：5E 女。構成のしっかりとした丁寧な作品。描画中の気持ちは回答していないので、想像の域を出ないが、過去を振り返り、未来にじっと目を凝らす姿。

図 3：14N 女。自ら「多色を用いた」と言明している様に、明るい色彩で生きているものを配した、未来志向の作品。

図 4：24X 男。様々な葉っぱ群の中に常光葉も茂らせている、大地にしっかりと根を張っている群木。未来に向けて準備完了、といったところか。

図 5：28b 男。一見奇抜な印象。どんな「男の生涯」の物語が展開するのであろう。

6. 終わりに

「はじめに」で述べたように、我々の出発点は、HTP 法の有する「課題性・自由度」の問題であった。そしてアセスメント的性格と拮抗する機能をファーム firm と呼び HTP 選択法に辿り着いた。この描画手法を中学 2 年生 28 名を対象に試したところ、かなりのファーム効果が得られた。

つまり、描画した生徒によってそれぞれ内容は異なるものの、自分のこれまでの人生を回顧し懐かしさを覚えた生徒もいたし、これからの生活への希望や夢を表出していた者もいた。

最後に、形容詞 firm は、「ものの作りが頑丈で強くがっちりして、つぶれたり、曲がったり、折れたりしない」の意味であることを伝えて、筆をおく。

表：家、木、人、3アイテムの選択と描画説明および描画中の気持ちについて

選択したアイテム	描画者	絵の説明	描画中の気持ち
I. 家と木と人の3つ	1A 男		昔は絵を描いたことがあるかも知れないけど全然覚えていません。クーピー（彼はクレヨンをこう呼んでいる）はとても描きにくいです。
	2B 男	晴れていたとき草原で日記を書いたまま家に帰り、雨が降ってきて、日記帳を忘れてきた場面。	小さい頃に戻った気分だった。大胆に描けたので面白かった。まるで、小3くらいの子が描く絵みたいだ。
	3C 男	木が中央にあって、横に、家と人がある絵。	楽しく描けた。
II-① 木と人の2つ	4D 男	夜に散歩をしているといきなり UFO が現れて・・・	幼児時代に戻った気分だった。いろいろ苦労したけど楽しくやれて良かった。
	5E 女		クレヨンで描くのは色鉛筆と違って難しかったけど、小学生以来久しぶりに使ったクレヨンだったのですごく楽しかった。
II-② 家と人の2つ	6F 男	昨日の夜、茨城県の某ホテルの倉庫に男が押し入り巡回中の警察と格闘。しかし数分後、男は警察が取り出した巨大やりにびびって逃げた。	もしもこんなことが起きたらと思った。
	7G 男	絵はイメージです。	描いているときにふと小さい頃を思い出してしまいました。
II-③ 家と木の2つ	8H 男	人と自然と一緒に生活できそうな村を描きました。	
	9I 男	木の上に家があり、その周りに遊ぶものがありそれで遊べるようになっている。	描いているとき幼稚園や保育園に戻った気持ちになった。
	10J 女	川のそばに木がある。	楽しかった。小さい時を思い出した。
	11K 女	絵の端っこに、14N 女さんの描いた家を描いて、ペットとしてチンパンジーを描きたいと思いました。	絵を描いているときとても楽しくて幼児期に戻った気分でした。
	12L 女	大きな家についている影がとても現実的だと思った。リンゴがおいしそう。広い庭に大きな家にリンゴの木があるところに住みたい。	小さい頃に絵描きはあまりしなかったから楽しかった。
III-① 家だけのもの	13M 女	家と雲を描いてチェックの家に煙突を立てました。	小さい頃に戻ったみたいで楽しくできました。でもすごくクレヨンで描くのは久しぶりだったので小さい頃がなつかしいです。
	14N 女	私は単純な絵を描くのが好きだったから家を描いた。雲もふわふわな感じが好きなのでふわふわな雲を描いた。それに蝶々、若葉やチューリップなど好きな物を描いた。煙突も描いた。できるだけ多色をつかった。	小さい頃に戻ったみたいでとても楽しかった。また、こういう絵を描きたい。
	15O 男		意外と楽しかった。クレヨンで描いたのは保育園ぐらいだったからなんか面白かった。
	16P 女	この絵はみんな仲のいい家族の家を想像して描きました。こういう家族になりたいと思いました。	描いているときはとても楽しかったです。小さいところは少し塗りにくかったけど久しぶりにクレヨンで絵を描いたからとても面白かったです。

中学生描画の物語性

	17Q 男	絵の場所は千葉県房総半島。車は特注品。値段は秘密。家は新築だが色を塗った。川みたいなのがあるがこれは道。庭園を造る予定。大成功を収めた30年後の自分の状況。	
	18R 男		描いているときはクレヨンで描いたからいつもと違う感じがした。
Ⅲ-② 木だけのもの	19S 女	木にリンゴをつけて、太陽を描いたり花を描いたりしました。	幼稚園や保育園の実習に行ったばかりなので、自分が幼稚園や保育園の子になった感じでした。クレヨンなどで絵を描くのは久しぶりで、なんか自分が小さい頃に戻った感じがしました。
	20T 女	一本の木が一生懸命生きてるところをイメージして描いた。	小さい頃に戻ったみたいだった。時間を忘れて無我夢中で描いた。何色もの色を上から重ねて塗っていくところがとても楽しかった。
	21U 女		久しぶりにクレヨンを使って絵を描いたらすごく小さい頃に戻ったみたいでとても楽しかったです。小さい頃は簡単に使っていたクレヨンだけ今はずごく難しく思えて描くのが大変でした。
	22V 女		小さい頃に戻ったみたいに楽しく遊び心で絵を描いていた。クレヨンで描くのは久しぶりだったから懐かしい感じがした。木の下の部分と葉の部分が重なっているところをちょっと失敗したけど楽しくできて良かった。絵を描くのは苦手だけど楽しくできて良かった。
	23W 女	この絵は木をメインに青空に太陽が輝いているような感じにした。リンゴがちょっと腐っている色になってしまったのが失敗だった。	幼い頃に戻ったみたいで楽しかった。絵を描くのは苦手な下手だけど楽しく描けて良かった。
	24X 男	森の中に大きな木があって、その木の葉はいつも光っていて、木の面が光る木もある絵です。	とてもいい気持ち。
	25Y 男		描いているときは色を塗るので無我夢中だった。
	26Z 女	小高い丘の上にある一本の大きな木にアオスジアゲハチョウをはじめ様々な生き物が集まってくる場所です。	なぜかすごく必死になって描いていた。クレヨンを使うのも久しぶりだったので、気持ちよく描くことができた。アオスジアゲハチョウが好きなので描いてみたが妙な物体になってしまった。上手下手が気にならないで思い切り描けた。
	27a 男	美術の授業をやっているみたいいろいろな色を使って塗りました。	やっぱり塗り始めはとまどったけど、塗り始めたら止まらなくなっていくみたいでした。
Ⅲ-③ 人だけのもの	28b 男	この絵は「男」です。一人の男を描いた作品。題名をつけるとしたら「男の生涯」です。	ゆかいな気持ちで描いていた。



図 1 : 3C 男

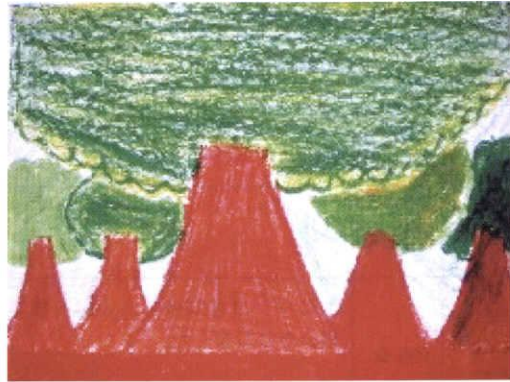


図 4 : 24X 男

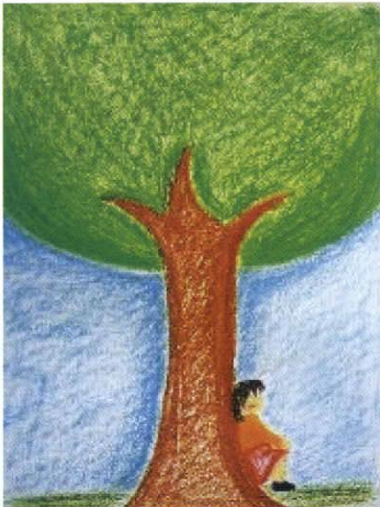


図 2 : 5E 女



図 5 : 28b 男

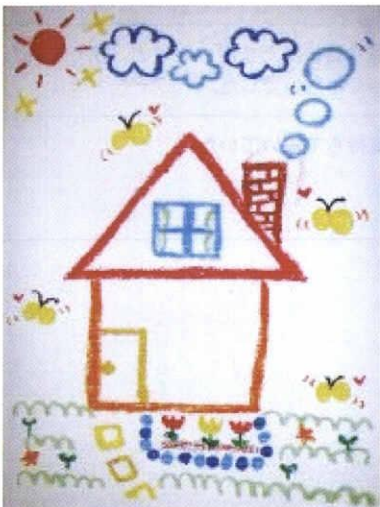


図 3 : 14N 女

文 献

- 稲田圭子 2003 S-HTPを用いた学童期・思春期の心象世界への接近—樹木・動物の描画変化との関連から—島根大学教育学部心理臨床・教育相談室紀要2, 63—72.
- 前川あさ美 1996 統合型HTP法を通じた描画体験過程の分析 研究助成論文集第32号 80—91
- 三上直子 1995 S-HTP法—統合型HTP法による臨床的・発達のアプローチ 誠信書房
- 三上直子 2002 描画テストに表われた子供の心の危機 誠信書房
- 三沢直子 2004 子どもたちはなぜ、9歳で成長がとまるのか 実業之日本社
- 小山内實・玉田尚子 2006 描画にみる変貌する子供達—「家・木・人」描画(S-HTP法)の徹底分析に向けて—三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要第26号 13—18
- 酒木保, 吉沅洪, 小山内實 2002 色彩プロットから物語構成にいたる—治療法 芸術療法 Vol. 33 No. 2
- 玉田尚子・中谷素之 2005 教育心理学フォーラム・レポート『子どもの養育環境と心理的危機、レジリエンスに関する研究』日本教育心理学会
- 新英和大辞典・第六版 2002 研究社
- 新英和中辞典・二訂版 1968 研究社